

## 令和4年度 改善計画書【 教育 】

推進責任者： 宇佐川 毅

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
B：ディプロマ・ポリシーに定められる学修成果を学生が達成するために、適切なカリキュラム・ポリシーが定められていること	(全学共通評価：B-1) ディプロマ・ポリシーで期待される学生増に向けた学修が行われるカリキュラム・ポリシーとなっていること。	【教育会議】 教育プログラム単位で定める3ポリシーの見直しや改正の際には、各授業科目における学修成果の相関性(◎や○)の部分も含めたカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの見直しを行うよう周知を徹底いただきたい。	・3ポリシー改正の際、カリキュラムマップ、ツリーも併せて点検・見直しをすることの周知については、令和4年10月25日、教育会議の下に設置された「『教育の内部質保証に係る教育総合評価の結果を踏まえた改善に関するワーキンググループ』において対応を検討した。 3ポリシーを見直す際は、カリキュラムツリー及びカリキュラムマップを点検する必要があることを明文化するため、「3ポリシー等を変更する場合のフロー」の一部改正案を作成し、第6回教育会議(令和4年11月8日開催)へ提案、了承された。 ・教育会議で了承されたことを受け、令和4年11月14日付けで各部署宛、及び大学教育統括管理運営機構長宛へ通知文を発送した。 ・今後も継続してワーキンググループにおいて、カリキュラムツリーのあり方や記載の内容について、点検や確認を行う予定である。
F：期待される学修成果の達成の程度について、適切に評価していること	(教職課程評価：F-3) 成績評価に関する共通の理解が構築されていることを確認していること。	【教職総合センター教職運営委員会】 同一名称の授業科目における成績評価の共通の理解を図るよう、教職課程における実施体制を検討いただきたい。	・令和4年12月2日開催の第4回教職総合センター教職運営委員会において、改善の提案を受け、対応について審議した結果、以下のように改善に向けて取り組むこととした。 ・複数の教員が担当する同一名の授業を複数クラスで開講する場合、成績評価を含めたシラバスの統一について「改善を要する点」として指摘があったことから、同一名の授業科目を担当する教員によるシラバス内容の検討会を開催し、その結果を令和5年2月末までに本委員会に報告することを依頼する。 検討会の結果を踏まえ、必要に応じてシラバスの共通化を依頼することとし、他の検討事項があった場合は本委員会にて令和5年度に審議を継続することとする。
	(学位プログラム評価：F-4) 授業科目ごとに学生に対して成績評価の基準について学生が理解していることを確認していること。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	自己点検・評価項目について、関係する委員会等の議事録の整備をおこなう。
	(学位プログラム評価：F-17) 【教職課程】成績評価に関する共通の理解が構築されていることを確認していること。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：F-18) 【教職課程】教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を明らかにするための情報の設定及び達成状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
G：期待される学修成果を学生が達成していること	(学位プログラム評価：G-1) 標準修業年限内の卒業(修了)率、標準修業年限×1.5年内卒業(修了)率等を確認していること。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：G-2) 資格等の取得状況を確認していること。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：G-4) 就職率、就職先、国家試験合格率、進学先の状況を確認していること。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：G-5) 学修成果の達成状況について直接評価の観点(ASOを活用した成績状況等)から確認していること。	【教育学部】 学生の学修成果の達成状況について、直接評価の観点から確認していることが認められないため、適切な委員会等において確認することを求める。	令和3年度の教育学部教育・研究活動推進委員会が、本項目に関して令和3年度の改善実施報告書に記載した「学生の学修成果の達成状況についての直接評価は、令和3年度の成績に基づき、各講座単位で行い、必要な学生指導を行ったかの記録を含めて、令和4年度の教育・研究活動推進委員会に報告させ、委員会で適切な対応が行われたかを確認する」という手順に従って、各講座がASOやASOから抽出したデータ等をもとに学生の学習成果の達成状況について確認していることについて、令和4年度の委員会において、令和4年12月までに確認作業を行う。

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
I：学生が学修成果を達成するための支援が十分に行われていること	(観点I全体) I-4 就職支援の在り方	【進路支援委員会】 企業説明会等の実施状況は確認できたが、具体的な参加企業の業種や、参加学生の数や所属学部、また、実際にどの程度それらの企業に就職しているか等の情報が確認できなかったため、より戦略的な就職支援につながるよう、情報の収集、分析等の工夫を検討いただきたい。	令和4年12月の進路支援委員会において、改善の提案を受けての対応について審議した結果、企業説明会等の実施主体である就職支援課において、実際に就職に繋がることが想定される「学内企業説明会」及び「熊本県企業合同説明会」について、以下の情報を2月中旬を目途に収集・整理することが了承され、データ収集等に取り組んでいる。併せて、収集したデータに基づき課題等を整理した上で、より有益な就職支援に繋がるような必要改善・見直しを行うこととしている。 ①学内企業説明会参加企業（主要企業）への就職状況の確認 ②説明会等参加企業の情報整理（業種等）と学生の就職状況の分析 ③各イベント参加学生の情報整理（参加者数・所属・学年等）
	(学位プログラム評価：I-2) ガイダンスの実施状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：I-3) 担任制等の実施状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：I-4) 基礎学力不足の学生に対する指導、助言、もしくはリメディアル教育の実施状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：I-5) 他学部の授業科目の履修の扱い状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：I-12) インターンシップを除くキャリア教育の実施状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：I-14) 【教職課程】教職課程の学生に対する履修指導の実施状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(学位プログラム評価：I-15) 【教職課程】教職課程の学生に対する進路指導の実施状況を確認する。	【文学部】 点検項目の中で、当該部局の適切な委員会で確認を行ったことが読み取れるエビデンスの提出がなかったため、関係する委員会等の議事録の整備を徹底いただきたい。	(学位プログラム評価：F-4の同「改善計画」に記載のとおり)
	(教職課程評価I-1) 教職課程の学生に対する履修指導の実施状況を確認する。	【教職総合センター】 ・履修カルテの活用状況を調査するなど、適切な履修指導体制について検討いただきたい。	・令和4年12月2日開催の第4回教職総合センター教職運営委員会において、改善の提案を受け、対応について審議した結果、以下のように改善に向けて取り組むこととした。 『教職実践演習』は、これまでの教職に関わる学びや実習の状況を自己評価し、自らの課題を見つけ、その解決を図ることを目的としている。「課題の発見」において、履修カルテは重要な役割をもつことから、その記入の確認は必須といえる。さらに、指導する教員はそれを確認した上で、課題設定が行われているかの確認が必要となることから、令和5年2月までに、各部局にて実施するシラバスチェックの際に『教職実践演習』の受講時に履修カルテの記入状況を確認する項目を盛り込むよう依頼し、履修カルテの活用状況の向上を図る。 ・令和5年度以降の履修カルテの活用状況については、事務にて入力状況一覧を出力し、空欄がある学生・教員については部局を通じて学生・教員へ入力するよう促す。また、次年度以降継続して効果的に実施出来る方法を令和5年度中に本委員会にて検討する。

自己点検の観点	自己点検・評価項目	改善を要する点	改善計画
	<p>(教職課程評価：I-2)</p> <p>教職課程の学生に対する進路指導の実施状況を確認する。</p>	<p>【教職総合センター】</p> <p>教職への就職に関するデータの収集と適切な進路指導体制について検討いただきたい。</p>	<p>・令和4年12月2日開催の第4回教職総合センター教職運営委員会において、改善の提案を受け、対応について審議した結果、本年度はすでに教職への就職に対する進路指導は終了しているため、次年度に向けて以下のように改善に向けて取り組むこととした。</p> <p>①開放制学部に対して次年度の教職への進路指導体制（資料）の提出を令和5年2月までに依頼する。</p> <p>これまでの教職に関する資料提供を開放制学部に求めたところ、資料が保管されていなかったため、次年度から教職への進路指導に関する資料（1年次の入学ガイダンスにおける教職の履修指導、教育実習の事前指導・事後指導、教職に関する進路指導（学部委員や指導教員の個別指導を含む）の保管と年度末の提出を開放制学部依頼する。</p> <p>②教員採用試験に合格した学生に教職への就職に対する進路指導に関する調査を令和5年3月までに実施する。</p> <p>教職への就職に対する進路指導をどのように受けたか、どの進路指導が役に立ったか、進路指導に対する意見等を求める。</p> <p>(各学部でMoodleを利用して教員免許取得者や採用試験合格者にアンケートを記入してもらうなどの方法を検討する。)</p> <p>③②で調査した結果を基に学生のニーズを洗い出し、令和5年度中に開放制学部及び教育学部と連携し、地域連携・教職支援部門にて今後の進路指導体制について検討する。</p> <p>④教員採用試験に関わる職員の配置の検討を働きかける。</p> <p>令和3年度採用試験合格者数158人。内訳：教育学部138人、文学部4人（中学3人、高校1人）、工学部1人（高校1人）、理学部15人（中学9人、高校6人）。令和3年度卒業生の入学時定員は、1,670人であり、うち医学部と薬学部の327人を除くと、1,343人（大学院進学者も含めて）が就職支援の対象となる。全体学生の11.8%が教職に就いていることを考えると、教員採用試験を支援する担当職員の配置の検討が必要であると考えます。</p>
<p>J：教職課程の運営に関すること</p>	<p>(教職課程評価：J-7)</p> <p>教職課程に特化したFD・SDの実施状況を確認する。</p>	<p>【教職総合センター】</p> <p>開放制学部のFD活動の改善のため、教職課程に特化したFD活動の実施を検討いただきたい。</p>	<p>令和4年12月2日開催の第4回教職総合センター教職運営委員会において、開放制学部開講の教職科目のシラバスチェック・授業改善のためのアンケート結果の分析・成績分布の分析および教職課程に特化したその他のFD活動の実施手順を策定した。なお、令和4年度については、シラバスチェック未実施の科目について、同委員会を確認を行い、改善が必要なシラバスについては次年度授業担当教員へのシラバス執筆依頼の際に（令和5年2月までに）改善を依頼する。（シラバスチェックについては次年度以降は部局で実施することとし、同委員会で行うのは今年度限りとする）</p> <p>教育学部で行われている教職課程に関するFD活動の中で、開放制学部の教員が参加できるものをリストアップし、令和5年度の教職課程に関して有意義な内容のFD活動を開放制学部の教員も参加できるように公開する方向で調整を行う。</p>